

唯、碎石の路上に狼籍たる爲めに馬蹄を害ひ易きに注意を要す。北坂は二里弱之を南坂に比ぶれば、一層の緩なるを見るも、礫石累々として騎行容易ならず。

午前十一時、達哈特達坂の頂上に達するや、気温三十度を示す、嶺は實に海拔一萬一千餘尺、殘氷尙ほ堅く、左右の崖頂は、千古不消の白雪を粧ひ寒風凜烈骨に沁む。時に頭上野雞の一聲を聞く、聲あるも形を見ず。同行の蒙古人の言に依れば、是れ即ち雪雞にして、其形家雞と異ならず。羽色雪を欺き、常に雪中に棲息すと。

單騎幽探伊水源 千秋雪鎖九霄門

峯頭停馬徐回顧 百里平疇三畝園

此地にて出迎の爲め先着せる蒙古官二名に導かれ、南坂を下り盡せば、廣濶なる牧場に出づ、之れを著勒都斯の高原と爲す。此處より右すれば大著勒都斯河左すれば小著勒都斯河の谷地にて大小著勒都斯河谷を分割する著勒都斯嶺は、萬古の白雪を戴き、近く睫眉の間に聳えたり。是に於て、予は左折して午後零時五十分巴彥布拉克に達し、吐爾扈特汗王の夏窩子即ち夏季の幕營地に投ず。此日行程約十一里。

達哈特達
嶺
上雪雞を
聽く

吐爾扈特
汗王の夏
窩子